

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200510		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」2階ユニット		
所在地	名寄市西1条南4丁目17番地		
自己評価作成日	平成27年7月13日	評価結果市町村受理日	平成27年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所は平成15年11月に開設され、以来事業所や町内会相互の行事等を通して 地域交流の機会が得られています。また、公共機関や商店街、理、美容院、一般企業が 徒歩圏内にあり、利便性の良い環境にあります。 ・送りの時間を利用し、理念、ケア理念の唱和や筆記を行う事で理念の大切さについての共有を図っています。 ・体調の変化があれば、日中夜間を問わず迅速に必要な受診が受けられる様、送迎を含めた対応を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0173200510-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年8月31日

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念には地域の中でという文言が含まれている。申し送り時には、理念の唱和を行う事で共有や実践に繋がられる様努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議や避難訓練、事業所や町内会行事を通して関係づくりが出来ている。また、近隣の方には、しっかりと挨拶が行える様意識をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、認知症に関する話題が挙がった時には、理解して頂ける様に努めているが、改めて理解や支援に関して発信の場は設けていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、発言し易い雰囲気作りを心がけており、和やかな場となっている。その席上での意見について、出来る限りサービスの向上に活かされる様にと意識をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターや高齢福祉係、介護保険係等との情報交換はもとより、良好な関係が築かれていて、2ヶ月に一度の運営推進会議にも出席を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を取り上げ勉強会を行っているが、日々の生活の中であって、事故を意識するあまりに「危ないよ」という言葉が多く、時として入居者の行動を制し兼ねない場面もある。施錠は基本的に夜間の防犯上としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、日頃気付かずに虐待に相当する事項は無いかを学んでおり、言葉の抑揚や語尾一つからも、冷たい印象になる等気付きの場としている。又、近隣で開催される研修会等への自主参加等、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用するケースは現在ない事もあり、学ぶ機会は持ててこなかったが、市民後見人も謳われる現在、認知症対応の事業所として勉強する機会を確保していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居時、制度の改定時に於いて、十分に説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を表出できる機会として運営推進会議が挙げられるが、ケアプランの説明の機会には都度、家族さんからの意向を伺える様にと心掛けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議からの意見や意向を集約し、年間の事業計画に繋がり、承認がなされ実施に移されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得によるキャリアアップ制度があり、実績を考慮した昇給もあって、個人の頑張りが認められる職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の定期的な勉強会や近隣で開催される研修会への参加も行っている。職員の力量に合った研修の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他の事業所との情報交換が幾分行えるようになり、交流も行えつつあるが勉強会までは、至っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込み時の情報やその後の経過を家族や関係機関から伺い、更に本人の言葉や様子から、必要な支援を見極め、安心して生活出来る様関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての家族の思いや不安を共有し、事業所に求めたい意向を伺う等、本人と一緒に支えられる様、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込み時や待機中の状況確認の際には、本人や家族が困っている事が少しでも緩和出来る様、受診を勧めたり、他の施設の待機状況を収集し、アドバイスを行う場面もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が望む活動を把握し出来るだけ希望に添える様に心掛けている。また、本人の力が維持される様な活動を提案し、プランとして立案・提供している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊は基本的に自由。電話に関しても家族の事情も考慮しながら行っている。面会時には最近の様子を伝えながら家族と情報を共有し、時には家族さんに担っていただく事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かつての知人や友人の面会も自由となっており、関係が断ち切れてしまう事が無い様努めている。また、面会に来易い雰囲気作りとゆっくり談笑できる環境づくりを心掛けている。馴染みの美容院等への支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状によっては、孤立を生みやすくなりがちで、入居者同士の関係性の把握について強く意識をしている。スタッフが間を取り持つ、係わりの時間を意識する事で孤立する状況を避け、関係性の維持に努めたい。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に家族から相談を受けたケースもあったが、時間の経過と共に自然と薄れていく傾向にある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場面場面での希望や意向の把握に努めている。また、毎月のカンファレンスでは時間を掛け話し合いを行い、少しでも本人の気持ちを汲み取れる様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者本人、家族から得た情報と他の事業所からの情報、入居後の生活を合わせながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を把握し、より良い暮らしになる様アセスメントを行い、共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、課題やケアのあり方について話し合っている。また、ケースによっては事前に医師や看護師、リハビリスタッフから助言をもらう事でより現状に即した介護計画となる様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関する勉強会を行っているが、今なお記録内容に差も大きく、気づきや工夫に繋がる記録には届いておらず、皆が力を付けられる様学び合っていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や入・退院・退居の送迎等その時々合わせた対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地理的に四季がはっきりした環境の中で散歩や外気浴の機会を設けられる様心掛けている。近隣の方と気軽に挨拶を交わす事も出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を継続して行える様支援しているが、状況によっては専門医への受診が必要になる場合もある。その際は家族への理解を求め必要な医療に繋げている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院と医療連携を取っていて、週一回の訪問がある。訪問までの様子を報告し、状況によっては専門医に掛かる事を勧められたり相談に乗ってもらう等、連携が図られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には情報提供書や口頭にてご本人の状況を病院に伝えられている。面会の際にも看護師からご本人の情報を得ながらできるだけ早く元の生活に戻る事ができる様に情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	事業所として“できる事”“できない事”を重要事項説明書に記載されているが、改めてご家族に口頭で説明をしている。また重度化や急変時にはご家族同席の中で医師の判断を仰ぎ、出来る限りの支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応に不安がある為継続して救命講習を今後も受講していく予定。事例検討を行なう事で事故の発生の防止に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の呼集訓練と消防訓練を行なっている。消防訓練に関しては、関係各所の協力を得られており終了後には運営推進会議を開催し、地域との協力体制を確認している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等できるだけ他の入居者からの視線が集まらない様な声掛けを行なう事で人格や誇りプライバシーの保護に対して努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄や入浴、休息、活動への参加に関しては最大限ご本人の意思を尊重する様に努めているがその他自己決定の機会を持つ事がなかなかできていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入浴や食事、休息の時間等できるだけ入居者一人ひとりのペースに合わせた支援ができる様に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に通い慣れた理・美容室に出掛ける等を支援すると共に、日常の整容や、おしゃれに配慮をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備に関して、現在は直接的な調理は難しいが、片付け等の作業を中心に行っている。また季節に関連した食事への配慮を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分量に関しては確保されている。食事が少ない入居者はご本人が好む物を補食として準備・提供をしております栄養状態の維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や歯磨きについては、夕食後を主としていて、日中の支援は十分とは言えない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パットやリハビリパンツ等は、日中・夜間の状況に合わせた物を使用している。基本的に本人の感覚に任せているが、時間が空き過ぎている時には随時声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の大半は、常時下剤を内服している状況ではあるが、体操、腹部マッサージの継続と、野菜ジュース、乳製品を摂取する事で便秘の予防、軽減に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	声掛けをした上で、本人の返答・意思に沿った入浴をしているが、スムーズな入浴が出来ないケースもあり声の掛け方等を更に工夫していきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	内服に頼らず良眠している方が殆どであり、時間にこだわらず、本人のペースに合わせている。また、声を掛け過ぎない事や換気、温度調節にも気を配りながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化の確認に関して、一定の理解は出来ているが、薬剤の副作用等については、今後更に、学習していく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者によって活動量や役割について一人ひとりばらつきが見られており活動量が少ない入居者には気分転換ができる様意識をしながら対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴等については希望時又はスタッフからの働き掛けで行っている。買い物の機会をはじめ外出の機会はなかなか持つ事ができておらず日常的な外出支援に繋がっていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本心では、手元に金銭を持ち今まで通りに買い物をしたいという気持ちを持っていても実際に自ら支払いを行なうまでは至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に、ご家族の意向や気持ちを配慮し手紙や電話のやり取りは自由となっている。現状としては手紙・電話ともどちらかと言うと一方的なやり取りとなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯を考慮し、大きな音や騒がしい雰囲気になる様な活動できるだけしない様、気を配っている。入居者に季節の移り変わりが感じられる様な場を今後も提供していきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや食卓、それぞれの入居者が好みの場所でマイペースに過ごせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、ご本人が使い慣れた物や好みの物を持ち込み、配置してもらおう事で少しでも自宅での生活に近い状態となる様話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な声掛けや介護をする事がない様に常に意識している。トイレや居室等初めての方でも場所が分からず困ってしまう事がない様に表示をする等の工夫を行っている。		